

「最近」と「近日」

山 際 彰

1. はじめに

現代社会において「最近」は非常に使い勝手の良い語として広く使われている。朝日新聞デジタル（2013/09/16 時点）にて「最近」を検索すると、21418 件もの記事が検索結果として表示される⁽¹⁾。これらの記事ではいずれも「この頃」というような意味で「最近」が用いられている。

(1)世界的な金融危機から中国経済の急速な回復を後押しした潤沢な資金供給の余韻に加え、最近の景気減速もあって、2000 年代初頭に中国政府が大手銀行に数千億ドルもの公的資金を投入した事態の再現に期待が高まっている。

（朝日新聞デジタル・2013/09/17）

しかし、「最近」の第一義には「最も近い」ことが挙げられる。例えば、『広辞苑』第六版（2008）には次のように記載されている。

①基準とする時日・位置に最も近いこと。

②近ごろ。近来。「一の出来事」「一彼とはさっぱり会わない」

確かに「最近」を字義通りに解釈すると、「最も近い」という意味に捉える事ができる。そのことを確認するために一つ例を挙げる。

(2)而シテ陸ニ最近ノモノヲ磯ノ島ト云フ（函館新聞・1881/02/22）

これは函館市中央図書館デジタルアーカイブ 文書画像検索システムで確認した『函館新聞』の記事の一部を抜粋したものである。この例において「最近」は『広辞苑』の①に挙げられているような「最も近い」という意味で用いられている。ただし、

(2)

現代の「最近」がこのような意味で使われることがあるかという点、そうではない。

では、そんな「最近」が現在のような意味に至るまでにどのような変化があったのか、用例を挙げつつ明らかにしたい。本稿は「最近」の意味変化を中心に取り上げるが、関連語として「近日」についても取り上げる。

2. 「近日」について

現代における「漠然とした過去」を表す語に「最近」を挙げるとするならば、「近いうちに」というような「漠然とした未来」を表す語の一つには「近日」が挙げられるだろう。現代において「近日」を使う場合、(3)のような例が挙げられる。

(3)クラブによると、モントリーヴォは左大腿二頭筋に損傷が見つかったとのこと。近日中にさらなる検査を受けると発表されている。

(朝日新聞デジタル・2013/09/16)

事実、こうした意味は『広辞苑』を始めとする現代の小型国語辞典類のいずれにも記されている（以下は『広辞苑』第六版（2008）の記述）。

今より後、程遠くない日。近いうち。ちかぢか。「一中にうかがいます」「一開店」

しかし、一方で次のような用例も見られる。

(4)ファッション業界では、景気が悪いと黒やベージュなど定番色が流行し、景気が回復すると、遊び心のある色やデザインが好まれる傾向があることから、近日のアベノミクスによる景気の回復を反映し、より個性的な色に人気が集まっている模様。（朝日新聞デジタル・2013/06/27）

(4)の「近日」は「この頃、最近」というような過去の意味で使われている。こうした意味は『広辞苑』のような小型国語辞典類には記載されていないが、『日本国語大辞典』（2000-02）には次のように記されている。

- ①ごく近い過去の日。また、ごく近い過去から現在までの日々。最近。近頃。
この頃。
- ②今から後、幾日もたたないうち。近いうち。そのうち。ちかぢか。近々（きんきん）。

以上のように「近日」には(3)のような〔未来を表す意味〕（以降、〔未〕と表記）と、(4)のような〔過去を表す意味〕（以降、〔過〕と表記）が存在する。しかし、現代では〔未〕で用いられることが一般的である。また、現代ではほとんどが(3)のように「近日中に」として用いられる「近日」であるが、古くは(4)のように「近日の」といった形で用いられることが珍しくはなかった。

このように「近日」には意味的な問題と用法的な問題の二つの変化が見られる。そのことを調べるために『日本古典文学大系』などの資料とデータベースを活用して用例を集め⁽²⁾、考察したものに山際（2014 予定）がある。ここではその概要について簡単に述べておく（「最近」に直接関連する意味変化のみについて述べる）。

「近日」が現在のような意味となったのは大正頃と考えられる。（表1）からわかるように、それまでは〔過〕が〔未〕を上回っていたにもかかわらず、大正では〔過〕が〔未〕を下回り、かつ減少していくようになる傾向が見られる。それ以降は〔過〕の出現率が安定する事から大正が意味変化の転換期になったと言える。

現在でも〔過〕の用例が出現しているということについては2000年代においても確認されている。ただし、これには国会会議録や新聞記事など使用場面の影響が考えられることに加え、用例数が限られていることから特殊な例であると考えられる。そのため、現代における「近日」が基本的には〔未〕であるということに疑う余地は無い。一方で、大正頃に「近日」の意味が〔過〕と〔未〕の併用から〔未〕に偏ることによって、「近日」の〔過〕が使用されていた部分に空白が生まれることになる。この空白がどのようになったのかについて考察する必要がある。

そこで、次章からは「近日」の関連語としてその空白を埋める可能性のある「最近」に注目し、考察を進める。

(4)

(表1) 「近日」の時代別意味分類表⁽³⁾

時代区分		[未]	[過]	保留	合計(有効数)	[過]の出現率
奈・平	710～1185年	0	3	0	3(3)	61%
鎌倉	1186～1333年	22	38	6	66(60)	
室・南	1334～1573年	12	17	1	30(29)	
江戸	1603～1868年	10	10	4	24(20)	
明治	1869～1911年	50	67	7	124(117)	57%
大正	1912～1916年	58	32	10	100(90)	36%
	1917～1921年	205	38	14	257(243)	16%
	1922～1926年	224	19	12	255(243)	8%
戦前	1927～1931年	139	4	4	147(143)	3%
	1932～1936年	188	7	8	203(195)	4%
	1937～1942年	111	3	1	115(114)	3%
戦後	1946～1956年	588	20	4	612(608)	3%
	1957～1967年	405	13	6	424(418)	3%
	1968～1978年	475	19	4	498(494)	4%
	1979～1989年	270	4	6	280(274)	1%
平成	1990～2000年	190	5	6	201(195)	3%
	2001～2012年	247	12	5	264(259)	5%
合計		3194	311	98	3603(3505)	

3. 「最近」の辞書記述

「最近」の辞書記述については1章で『広辞苑』を取り上げたが、他の辞書ではどうだろうか。まず、同じく二つの意味を記載しており、かつ用例が豊富に記されている『日本国語大辞典』第二版(2000-02)を参照する。

①いくつかあるうちで、場所・位置・時などがある物に最も近いこと。

* 曆象新書(1798-1802)上・二「是はこれ恒星中にて、我太陽世界に最近なる者に於て此の如し、然れば其最近なる星の離地、既に太陽離地に万倍せり」

* 進化妙々奇談(1879-80)〈宮崎柳条〉九「最近(サイキン〈注〉イチチカキ)の恒星に至るには、須らく三年を歴(へ)」

* 日本の下層社会(1899)〈横山源之助〉二・一「今ま東京の最近なる統計

書に就き府下五十戸以上ある各種小工業を見るに」

②話し手が現在身を置いている時点およびそれに近い過去を含めて漠然という。近ごろ。このごろ。副詞的にも用いる。

* 邪宗門（1909）〈北原白秋〉例言「即最近三年間の所作にして」

* 桐畑（1920）〈里見弴〉ワキ・三「いや、最近（サイキン）あんなに肥っちゃったんだよ」

* 金（1926）〈宮嶋資夫〉一七「僕が鈴子さんの所へ訪ねて行った動機、ええ、最近（サイキン）に行つて逢ひました」

* 真空地帯（1952）〈野間宏〉四・二「木谷の兄は木谷の最近の様子をききとつて、〈略〉まじめにやっていると知ると安心したようだった」

表現に違いはあるものの、意味は『広辞苑』と大差ないことがわかる。このことから、「最近」には二つの意味があるといえる。一つには①に挙げられている「最も近い」ことを表す意味、もう一つには②に挙げられている「この頃」を表す意味である（以降は「最も近い」、「この頃」とする）。しかし、既に述べたように、現代では「最も近い」で「最近」が使われる事はまずない。このことについては①と②に挙げられているそれぞれの用例に注目すべき点がある。「最も近い」の初出例である『暦象新書』と「この頃」の初出である『邪宗門』を比較すると、その刊行年に100年近い差がある事がわかる。つまり、このことから「最近」には「最も近い」が先に存在し、「この頃」が後に追加されたのではないかという事が予測される。そこで、他の辞書を参照してみると、(表2)のような結果が得られた。この表から「最近」の意味が「最も近い」から徐々に「この頃」へと拡大していったものと考えられる。

では、中国語の場合はどうだろうか。『漢語大詞典』（1986-1993）によると、「最近」は次のように記されている。

①指說話前或后不久的日子。 宋 苏轼《省试宗室策问》：“而唐之宗室最近而易考。”

②极为接近。 宋 苏轼《答李琮书》：“天常正月中與軾言：‘播州首领杨贵遷者，俗谓之杨通判最近乌蠻，而梟武可用。’”

①は「今よりも前あるいは後間もない日」、②は「非常に接近する」という意味を表

(表2) 主な辞書における「最近」の意味記述⁽⁴⁾

辞書名	[最も近い]	[この頃]
『講釈附 いろは布告字引』(1876)	○	—
『漢語いろは辞典』(1887)	○	—
『漢語熟字典』(1892)	○	—
『漢語活益字典』(1892)	○	—
『漢語熟字解』(1893)	○	—
『明治漢語字典』(1896)	○	—
『新編熟語字典』(1900)	○	—
『大日本国語辞典』(1915)	○	—
『大字典』(1917)	○	—
『言苑』(1938)	○	—
『言林』(1949)	○	—
『辞海』(1952)	○	○
『広辞苑』初版(1955)	○	—
『新言海』(1959)	○	○
『岩波国語辞典』初版(1963)	○	○
『広辞苑』第二版(1969)	○	○

している。どちらの意味も蘇軾(そしよく)の作品が初出であり、11～12世紀頃の成立と考えられる。そうすると、日本とは異なり、中国では当初から両方の意味で「最近」が使われていたということになる。そのため、こうした意味の拡大(または変化)は日本語独自の現象ではないかと思われる。そこで、ここからは実際の用例から「最近」の意味変化について考察していく。

4. 「最近」の意味変化

4-1. 「最近」の用例(1700年代～1820年代)

本稿では『日本国語大辞典』で「最近」の初出とされている時代(1800年代前後)を中心に採集した用例を元に考察を進める⁽⁵⁾。今回調査した中で、最も古い「最近」の用例は「日本思想大系」の『洋學下』に収められている『ラランデ暦書管見』(1718)に見られた。意味は[最も近い]であり、(5)では「最遠」という語と対になって用いられているものと思われる。同じく1700年代の用例として挙げられるのが、『日本国語大辞典』にも挙げられている『暦象新書』(1798-1802)である。用例は3例見られ、意味はいずれも[最も近い]である。

(5)又前図ノ如ク、…最遠子ヲ午ニ視、最近丑ヲ寅ニ視ル。〔最も近い〕

(6)地丁ニ至レハ星ハ最近丑ニアリ。〔最も近い〕

【ラランデ曆書管見】(1718)

(7)是ハコレ恒星中ニテ我太陽世界ニ最近ナル者ニ於テ如是、然レバ其最近ナル星ノ離地既ニ太陽離地ニ萬倍セリ〔最も近い〕

(8)天径或間ニモ大陰視差一度トイヘリ由之算スルニ大陰離地ハ火星最近ナル時ノ離地ニ比スレハ百 $\frac{1}{2}$ 分ノ一ニモ及ハス〔最も近い〕

ほか1例。【曆象新書】(1798-1802)

今回、調査した1700年代の資料に見られた用例は以上の5例のみであった。これらはいずれも天文関係の資料であるということが共通している⁽⁶⁾。次に用例が確認できるのは同じく天文関係の資料である『理学入式 遠西観象図説』(1823)で(1例のみ)、その後は1870年代に入るまで「最近」の用例は見られない。

(9)又、若シ太陽ニアリテ太陰ヲ見ル時ハ、其太陽ニ親ムコト最近ノ極トイヘ共、無度一十分ニ過ルコトナシト。〔最も近い〕

【理学入式 遠西観象図説】(1823)

4-2. 「最近」の用例 (1870年代～1890年代)

1870年代に入ると、天文関係の資料以外からも用例が確認できるようになる。(10)の『輿地新図附録』(1874)では作品紹介の文章中に〔最も近い〕で「最近」が用いられている。(11)は『日本国語大辞典』に用例として挙げられている『造化妙々奇談』の例であり、こちらも意味は〔最も近い〕である。ただし、この作品については「人体」や「動物」、「宗教」といった多様な内容を扱っている中の「天文」に関する章で「最近」が使われているため、実質的には天文関係の文脈で使用されていると言える。

(10)「原図ハ日耳曼人ヘルマス、ベルゴース氏ノ著述ニシテ西曆一千八百名何十二年我カ明治五年ノ鏝行ニシテ最近ノ新図ナリ……私ニ英蘭ノ地誌ヲ引テ之ヲ補フ所多シ」。〔最も近い〕【輿地新図附録】(1874)

(11)最近(サイキン〈注〉イチチカキ)の恒星に至るには、須らく三年を歴(へ)…〔最も近い〕【造化妙々奇談】初編 初版(1879-80)

(8)

1870年代に確認できる用例はこの2例だけであった。しかし、1880年代に入ると、用例が多数確認できるようになる。用例は次の通りである。

(12) Proximate genus 最近類 [最も近い] 『哲学字彙』(1881)

(13) 最近三年間ノ海運⁽⁷⁾

■指スレハ僅カニ三ヶ年前ノ昔日明治十五年春夏ノ交政府ニ…

[最も近い] 『海運史料』下(1886)

(14) 第十三章 佛國大革命の最近因。[最も近い] 『文明要論』(1887)

(15) 最近の恒星に至るには、須らく三年を歴(へ)、… [最も近い]

『造化妙々奇談』初編3版(1887)

(16) 社告 國民之友 最近発兌高表 第八號……………七八〇〇冊…

[保留] 『國民之友』(1887)

(17) 〇赤十字社最近景況(1889/09/05)

澳國赤十字雜誌ニ記載スル所ニ據レハ希臘國赤十字社ノ最近景況ハ左ノ如シ
(宮内省) 希臘赤十字社最近ノ報告ハ設立(千八百七十七年六月十日)以來十年間同社事業ノ總概ヲ… [この頃] [この頃] [最も近い]

ほか6例。『官報』(1883-)

このように多数の用例が確認できること、(16)のようにどちらの意味と解釈するか判断に迷うような例や [この頃] の例が複数使用されるようになってきていることから、1880年代には「最近」が一般的な語として定着しつつあるものと考えられる。また、1890年代ではさらに用例が確認できるようになる。

(18) 第五章 チャールス、ヂツケンス …最近小説家中ノ兩雄 [この頃]

ほか1例。『英国文学史』(1891)

※その他の1890年代の用例は以下の通り [以下はその一部]。

『官報』(1883-) 国立国会図書館 デジタル化資料より ※1890～99年に22例。

『太陽』(1895-1928) 『太陽コーパス』より ※1895年に52例。

『最近明細東京全図』(1898) 岐阜県図書館 地図資料より。

これらを総合すると、次のようにまとめられる。日本語としての「最近」は1700

年代頃から「最も近い」で天文関係の資料に限り、わずかながら用例が見られる。その後、徐々に天文関係の資料に限らず使用されるようになり、1880年代頃からは確認できる用例数が大幅に増加し、「この頃」でも用いられるようになる。では、「この頃」が現在のように一般化するのはいつ頃からだろうか。ここからはその時期についてもう少し言及していきたい。

4-3. 「最近」の用例（1890年代～1920年代）

「最近」が「この頃」の意味で使われ始める時期について探るために青空文庫全文検索を利用して⁽⁸⁾、1890年代～1920年代の作品に使用されている「最近」の用例を採集した。その結果を表しているのが（表3）である。作品数自体の増加も影響しているため、単に「この頃」の数の増加から判断できないが、「最近」自体の用例数の増加、「最も近い」に対する「この頃」の多さから見ると、「この頃」の「最近」が一般的に用いられるようになる時期は1910年代頃であると思われる。

(19)しかるに何ぞ知らんや、この不可解の重量こそ、正しく靈魂その者の目方たること、漸く千九百〇六年の最近に於て、しかく断定せられたのである。

〔保留〕「太陽系統の滅亡」（1907）

（表3）「最近」の年代別意味分類表 — 青空文庫全文検索 —

年代／意味	「最も近い」	「この頃」	保留	合計	作品数（概数）
1890～1899年	2	2	1	5	110
1900～1908年	3	8	2	13	130
1909～1917年	7	22	0	29	310
1918～1926年	13	153	12	178	840
合計	25	185	15	225	1390

さらに、補足として神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブの【新聞記事文庫】の用例についても一部確認したところ、やはり1910年代には既に「この頃」の「最近」が一般化していると考えられるような結果が得られた（表4）。

(表4) 「最近」の年代別意味分類表 — 【新聞記事文庫】—

年代／意味	【最も近い】	【この頃】	保留	合計	記事総数(「最近」の記事数)
1912～1916年	28	65	7	100	24303 (5495)
1917～1921年	8	84	8	100	71588 (17748)
1922～1926年	9	85	6	100	58951 (15623)
合計	45	234	21	300	154842 (38866)

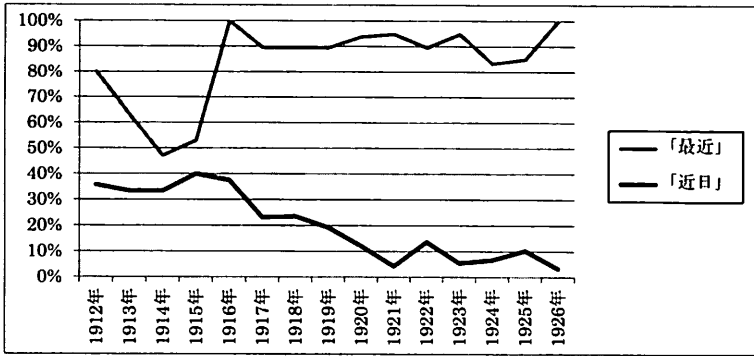
5. まとめ

今回わかった事をまとめると、次の三つのことが言える。

- ① 「最近」の日本における初出は1700年代であるが、それが一般的に使用され始めるのは1880年代になってからである。
- ② 「最近」の【この頃】が一般的に使用され始めるのは1910年代頃である。
- ③ 「近日」の【過】が減少する時期と「最近」の【この頃】が使用されるようになった時期がほぼ重なっている。

①は4-1.及び4-2.で述べた内容である。1700年代には天文関連の資料にのみ用いられていた「最近」が1880年代頃からは一般の語彙としても広く使われるようになっていくことが明らかになった。②は4-3.で述べた内容で、「最近」の【この頃】が1910年代頃から増えており、そのことから【この頃】が一般化したのではないかと考えられる。③は「最近」と「近日」の関連性についてである。2章で述べたように、「近日」には「近々、近いうちに」というような【未】と【この頃、最近】のような【過】があり、それらは大正を境として【未】に偏るようになる。そして、今回明らかになったように、「最近」もまた大正、特に1910年代頃から意味の偏りを見せている。そうすると、次のように考える事が出来る。

- ・「最近」は1910年代頃から【この頃】が使われるようになる。
- それにより、「近日」は1910年代に【過】から【未】へと偏りを見せる。
- ・「近日」は1910年代に【過】から【未】へと偏りを見せる。
- 【過】を補うために「最近」の【この頃】が使われるようになる。



(図1) 「近日」の〔過〕と「最近」の〔この頃〕の出現率推移【新聞記事文庫】

「近日」の意味変化と「最近」の意味変化のどちらが先であるのか（あるいはほぼ同時期であるのか）を厳密に特定する事は出来ないが、一方の変化に影響を受けて、もう一方の変化が起こった可能性は極めて高いと考えられる。このことは【新聞記事文庫】における「近日」の〔過〕の出現率と「最近」の〔この頃〕の出現率を対照させた次の（図1）のグラフより明らかである。これら①～③の結論については検討が不十分な点もある。しかし、「最近」と「近日」についての全体の流れは掴む事ができたのではないだろうか⁽⁹⁾。資料差による意味の偏り、中国語との関係性などについては今後の課題としたい。

以上、「最近」と「近日」について述べてきた。本稿では「最近」と「近日」だけを取り上げたが、他にも「この頃」や「近頃」などの和語についても調べる余地があると考えられる。また、「最近」の用法が連体修飾から連用修飾に至る過程についても一考の必要がある⁽¹⁰⁾。これらについては、また別の機会を待ちたい。

〈備考〉

本文中の用例の傍線、読点の一部は筆者が付したものである。

〈注〉

(1) 「最近」の同義語である「この頃（このごろ）」が543件、「近頃（近ごろ）」が501件であることと比較すると、その使用量の差は歴然である。

(2) 使用した資料・データベース（DB）類は次の通り。

資料：『日本古典文学大系』（1957-1968）、『作家用語索引』（1984-1989）、『太陽

コーパス」(2005)〔1895年・1901年・1909年に限る。〕

DB：古典選集本文データベース〔国文学研究資料館 電子資料館〕、〈デジタルで読む福沢諭吉〕〔慶應義塾図書館〕、青空文庫、デジタルアーカイブ【新聞記事文庫】〔神戸大学附属図書館〕、帝国議会会議録検索システム〔国立国会図書館 オンラインサービス〕〔1946-47年に限る〕、国会会議録検索システム〔国立国会図書館 オンラインサービス〕〔1947-2012年に限る〕

- (3) 保留とは判別不可あるいは両方の意味に解釈可能な例を指す(以降も同じ)。有効数とは全体の用例数から保留の例を引いた数である。〔過〕の出現率は〔過〕の用例数÷有効数×100(%)で計算した数値である。

- (4) 今回参照したが、「最近」の記述が見られなかった辞書は次の通り。

『英和對譯袖珍辭書』(1862)、『英華字彙』(1869)、『袖珍英和節用集』(1871)、『附音挿圖 英和字彙』(1873)、『訂増 英華字典』(1884)、『漢英対照いろは辞典』(1888)、『言海』(1889-91)、『日本大辞書』(1893)、『大言海』(1932)、『江戸語大辞典』(1974)、『時代別国語大辞典 室町時代編』(1985-2001)、『明治期漢語辞書大系』(1995-97)に収録されている各辞書。

- (5) 使用した資料・データベース(DB)類は次の通り。

資料：『日本思想大系』(1970-1982)〔『洋學』上・下と『近世科學思想』上・下に限る〕、『牛店雑談 安樂楽鍋用語索引』(1975)、『作家用語索引』(1984-1989)、『太陽コーパス』(2005)〔1895年に限る〕

DB：デジタル化資料〔国立国会図書館〕、近代書誌・近代画像データベース〔国文学研究資料館〕、アジア歴史資料センター〔国立公文書館〕、所蔵地図データベース〔国際日本文化研究センター〕、情報アーカイブ〔東京国立博物館〕、古典籍総合データベース〔早稲田大学図書館〕、〈デジタルで読む福沢諭吉〕〔慶應義塾図書館〕、デジタルアーカイブ【新聞記事文庫】〔神戸大学附属図書館〕、各都道府県立図書館のデジタル資料、青空文庫全文検索

- (6) 現代においても天文用語として「最近」が使われているようである。

月の最近・最遠

月の最近(さいきん)・最遠(さいえん)は、それぞれ月が地球にもっとも近くなる瞬間、もっとも遠くなる瞬間を指します。…

(国立天文台暦計算室 こよみ用語解説 天象より)

- (7) 本稿では「最近〇年間」(〇には数字・数を表す表現が入る)のような用法を【最も近い】と判断する。『日本国語大辞典』第二版のようにこの用法を【この頃】

とする辞書があるが、この場合の「最近」は時そのものを表すわけではないという考えに基づく判断である。これについては別稿で改めて述べる予定である。

- (8) 時代小説と思われる作品、外国の著作の翻訳は調査対象から外した。
- (9) 本文中では紹介できなかったが、今回「最近」について調べる過程で、「近いうちに」と解釈できるような「最近」の例が複数確認できた。ただし、紙幅の関係上、現状で把握している用例数と用例の一部を紹介するにとどめておく。

【作家用語索引】：9例〈【和解】：2、【暗夜行路】：7〉、青空文庫全文検索：1例〈【加利福尼亚の宝島（お伽冒険談）】：1〉、【新聞記事文庫】：43例〈1912年：2、1913年：1、1914年：2、1915年：1、1916年：1、1917年：2、1919年：3、1920年：5、1921年：6、1922年：7、1923年：1、1924年：2、1925年：3、1926年：3、1928年：2、1929年：1、1936年：1〉、帝国議会議録：3例〈1946年：3〉、国会会議録5例〈1956年：2、1966年：2、1986年：1〉

(20) 最近慶太郎が上京するなら、もう一度同じ事を慶太郎に申込んで、はっきりした事を聴けばいい。【暗夜行路】(1921)

(21) そこで、その結果どうなっているかといいますと、これは沖縄だけじゃないし、三沢、逗子、岩国、最近に佐世保にもまたつくるわけでしょう。

(衆議院 予算委員会第一分科会・1986年 発言者：上原康助)

- (10) 今回の調査から【この頃】が一般的に使われるようになる1910年代頃から連用修飾用法が多く見られるようになることがわかっている。ただし、この時期の連用修飾用法は現代とは異なり、「最近に」の形で用いられることが多いという特徴が見られる。同時期の他資料の確認にまで至っていないため、現時点ではこれが資料的な問題なのか、時代的な問題なのかまでは調査が及んでいない。そのため、本稿では「最近」の用法に関する言及は避け、別の機会とする。

〈参考文献〉

山際彰(2014 予定)「『近日』の語誌」『国語語彙史の研究』33

〈参考 URL〉

朝日新聞デジタル <http://www.asahi.com/> 2013/09/17

函館市中央図書館デジタルアーカイブ 文書画像検索システム

<http://records.c.fun.ac.jp/> 2013/06/15

古典選集本文データベース <http://base1.nijl.ac.jp/~anthologyfulltext/> 2012/10/26

- 慶應義塾図書館 Digital Gallery of Rare Books & Special Collections
http://project.lib.keio.ac.jp/dg_kul/fukuzawa_about.html 2013/06/05
- 神戸大学附属図書館 デジタルアーカイブ【新聞記事文庫】
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html> 2013/09/18
- 帝国議会議録検索システム <http://teikokugikai-i.ndl.go.jp/> 2012/11/04
- 国会議会議録検索システム <http://kokkai.ndl.go.jp/> 2013/03/25
- 国立国会図書館 デジタル化資料 <http://dl.ndl.go.jp/> 2013/04/12
- 国文学研究資料館 近代書誌・近代画像データベース
<http://base1.nijl.ac.jp/~kindai/> 2013/06/05
- 国立公文書館 アジア歴史資料センター <http://www.jacar.go.jp/> 2013/06/17
- 国際日本文化研究センター 所蔵地図データベース
<http://tois.nichibun.ac.jp/chizu/search.html> 2013/04/18
- 東京国立博物館 情報アーカイブ 古地図データベース
http://dbs.tnm.jp/infolib/meta/CsvDefault.exe?DEF_XSL=default&GRP_ID=G0000002&DB_ID=G0000002070607HM&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default
2013/06/18
- 早稲田大学図書館 古典籍総合データベース
<http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/> 2013/06/02
- 岐阜県図書館 地図資料
<http://www.library.pref.gifu.lg.jp/map/top.html> 2013/06/05
- 青空文庫全文検索 Aozora Bunko Full-Text Search
<http://www.su-ki-da.com/aozora/> 2013/09/17
- 国立天文台暦計算室 こよみ用語解説
<http://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/faq/> 2013/06/07
- (やまぎわ あきら／本学大学院聴講生)